

決算説明資料

2022年度第1四半期決算概況

2022年8月1日



(注意事項)

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

I.2022年度第1四半期決算

決算のポイント	4
連結業績概要（対前年同期実績）	5
セグメント別売上収益	6
セグメント別コア営業利益	7
コア営業利益増減分析（セグメント別）	8
非経常項目内訳	13
連結財政状態計算書	14
連結キャッシュ・フロー	15

II.2022年度上期予想

予想のポイント	17
業績予想修正（上期）	18
セグメント別売上収益・ コア営業利益予想（上期）	19

(参考資料)

セグメント別売上収益（四半期推移）	21
セグメント別コア営業利益（四半期推移）	22
セグメント別売上収益増減分析	23
主要グループ会社業績動向	26
地域別農薬売上収益	27

I . 2022年度第 1 四半期決算

総括

- 原料高によるコストアップがあるも、売価上昇や円安効果により、**売上収益・コア営業利益ともに増収増益**
- 多額の為替差損益により、**親会社の所有者に帰属する四半期利益は大幅に増益**

セグメント別コア営業利益

エッセンシャルケミカルズ	ラビグ業績改善も、国内・シンガポールでの交易条件悪化や自動車用途の需要減少により 大きく減益
エネルギー・機能材料	電池部材等で出荷増加の一方、原料高により 横ばい
情報電子化学	ディスプレイ材料の出荷減少も、円安効果や半導体材料の出荷増加により 増益
健康・農業関連事業	原料高も、南米農薬の売価上昇や円安効果により 大きく増益
医薬品	ライセンス一時金の計上により 増益

連結業績概要 (対前年同期実績)

単位:億円

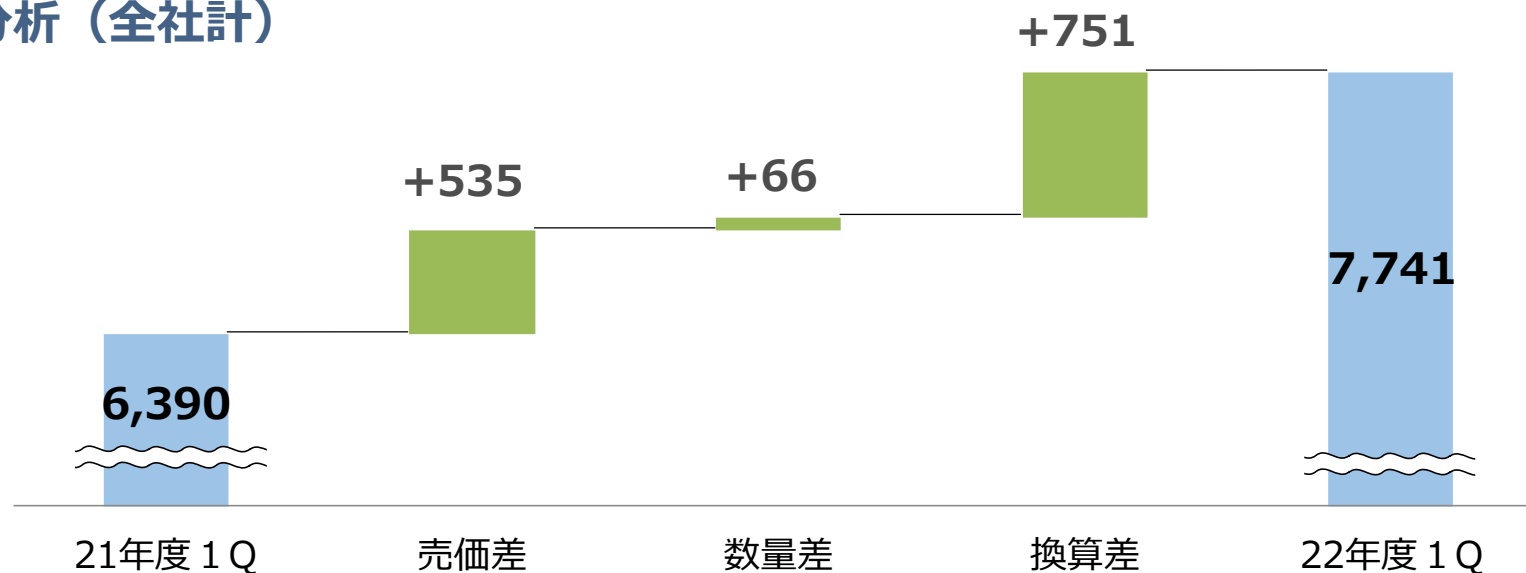
	21年度1Q	22年度1Q	増減	増減率
売上収益	6,390	7,741	1,352	21.2%
コア営業利益	617	641	24	4.0%
(うち持分法による投資損益)	(147)	(127)	(△21)	-
非経常項目	△33	22	55	-
営業利益	583	663	79	13.6%
金融損益	△17	474	490	-
(うち為替差損益)	(△3)	(569)	(571)	-
法人所得税費用	△178	△285	△107	-
非支配持分損益	△32	△151	△119	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	357	700	343	96.3%
ROE	3.5%	5.5%		
平均為替レート (円/USD)	109.52	129.73		
ナフサ価格 (円/KL)	47,700	86,000		
海外売上比率	68.7%	71.3%		

セグメント別売上収益

単位:億円

	21年度1Q	22年度1Q	増減	増減率	売価差	数量差	邦貨換算差
エッセンシャルケミカルズ	1,995	2,386	390	19.6%	250	△61	201
エネルギー・機能材料	744	864	120	16.2%	145	△47	23
情報電子化学	1,093	1,147	54	4.9%	△25	△83	162
健康・農業関連事業	1,031	1,526	495	48.0%	195	99	201
医薬品	1,392	1,677	286	20.5%	△30	152	164
その他	136	142	6	4.7%	0	6	0
合計	6,390	7,741	1,352	21.2%	535	66	751

増減分析 (全社計)

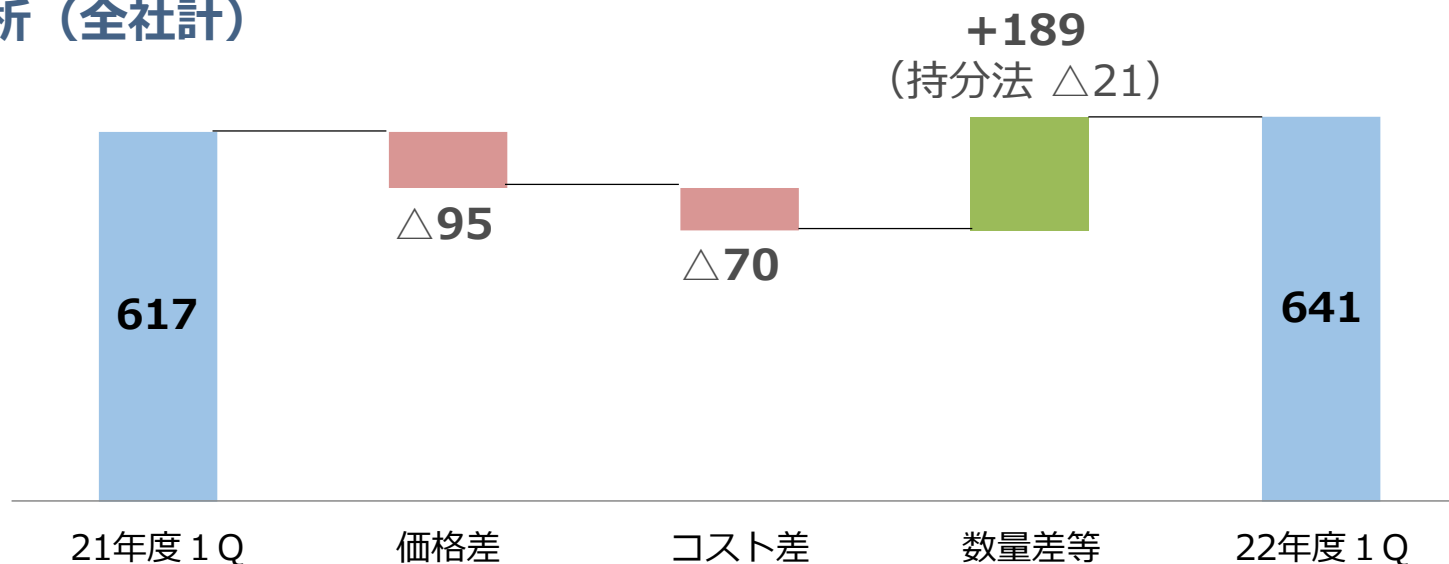


セグメント別コア営業利益

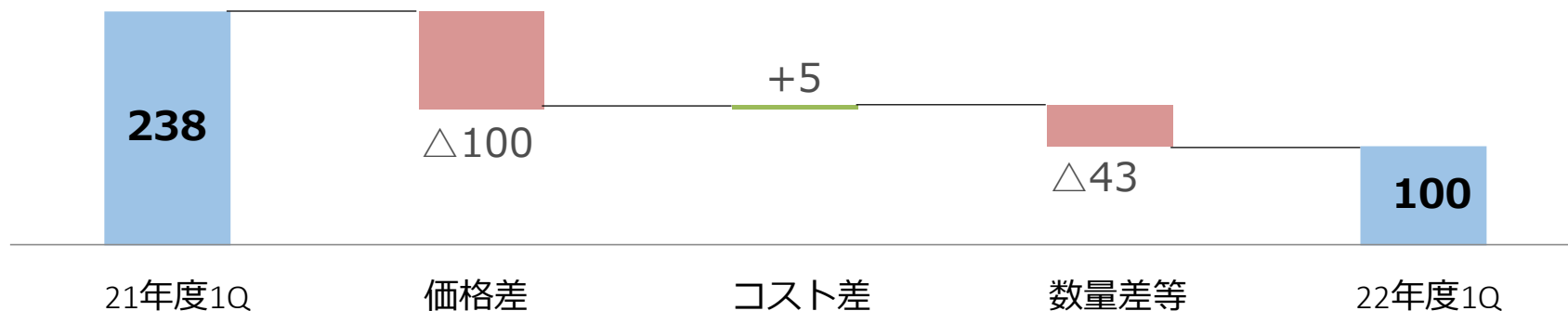
単位:億円

	21年度 1Q	22年度 1Q	増減	価格差	コスト差	数量差等
エッセンシャルケミカルズ	238	100	△138	△100	5	△43
エネルギー・機能材料	67	66	△1	△5	△5	9
情報電子化学	135	158	23	△30	0	53
健康・農業関連事業	103	219	116	70	△25	71
医薬品	96	141	44	△30	△45	119
その他 全社費用等	△23	△43	△20	0	0	△20
合計	617	641	24	△95	△70	189

増減分析 (全社計)



22年度第1四半期コア営業利益 100億円 (前年同期比△138億円)



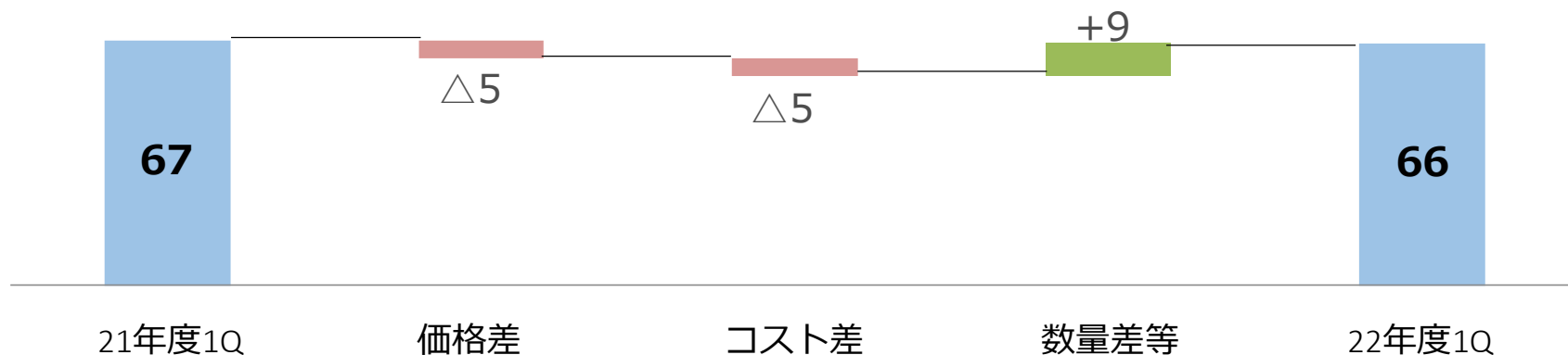
価格差

合成樹脂やメタアクリル、各種工業薬品等は原料・燃料価格の上昇に対し販売価格への転嫁が追いつかず交易条件が悪化

数量差等

ペトロ・ラービグ社の業績改善の一方で、自動車用途を中心に需要が落ち込んだことにより出荷が減少

22年度第1四半期コア営業利益 66億円 (前年同期比△1億円)



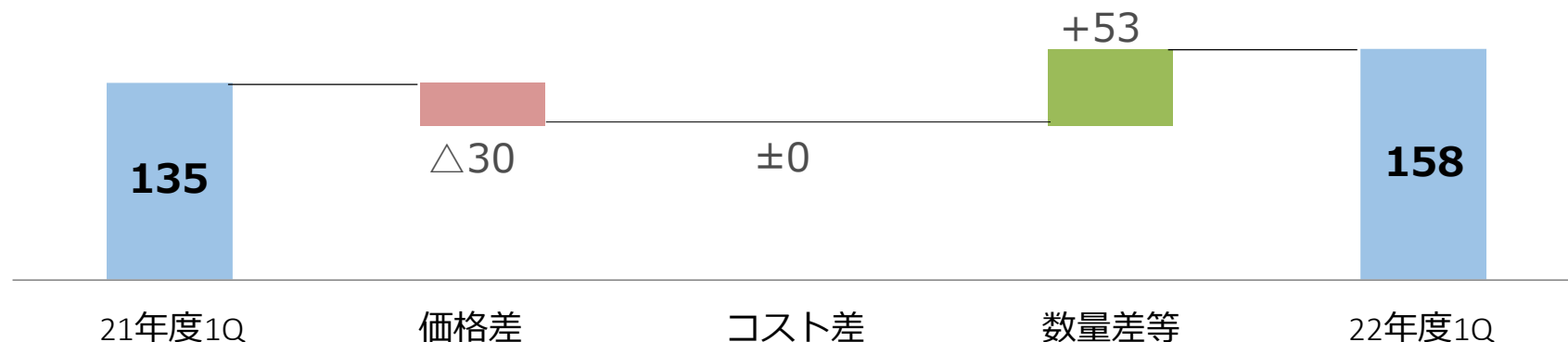
価格差

アルミニウムや正極材料は市況上昇に伴い交易条件が改善
一方でレゾルシンや合成ゴム等は原料・燃料価格の上昇に伴い交易条件が悪化

数量差等

リチウムイオン二次電池用セパレータの出荷が堅調に推移するとともに、
円安により輸出手取りが増加

22年度第1四半期コア営業利益 158億円 (前年同期比+23億円)



価格差

ディスプレイ

偏光フィルム、タッチセンサーパネルの売価下落

数量差等

ディスプレイ

巣ごもり需要一巡・インフレによる消費マインドの悪化等により出荷が減少

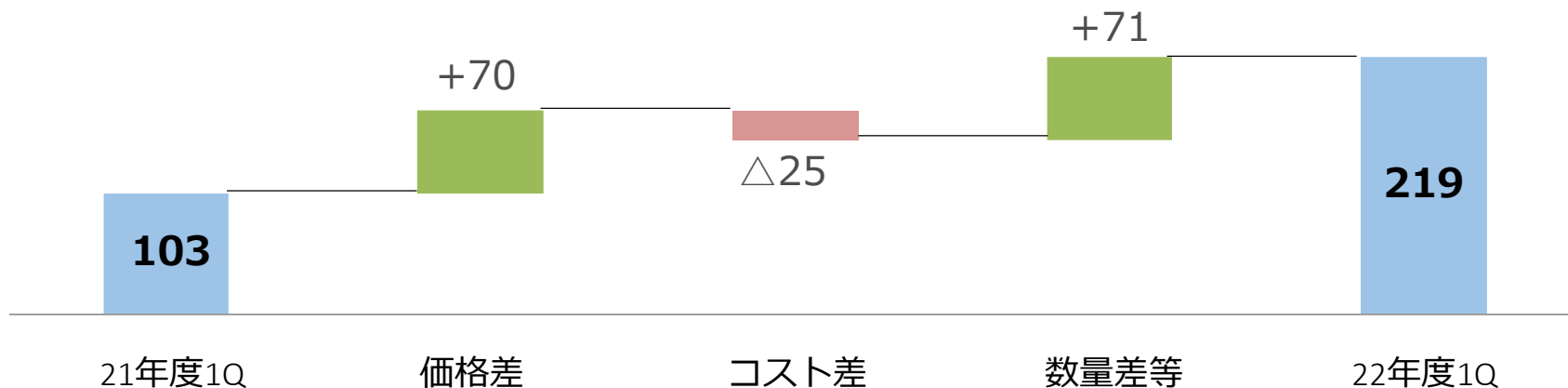
半導体

需要の伸長に伴い高純度ケミカルやフォトレジストの出荷増加

全体

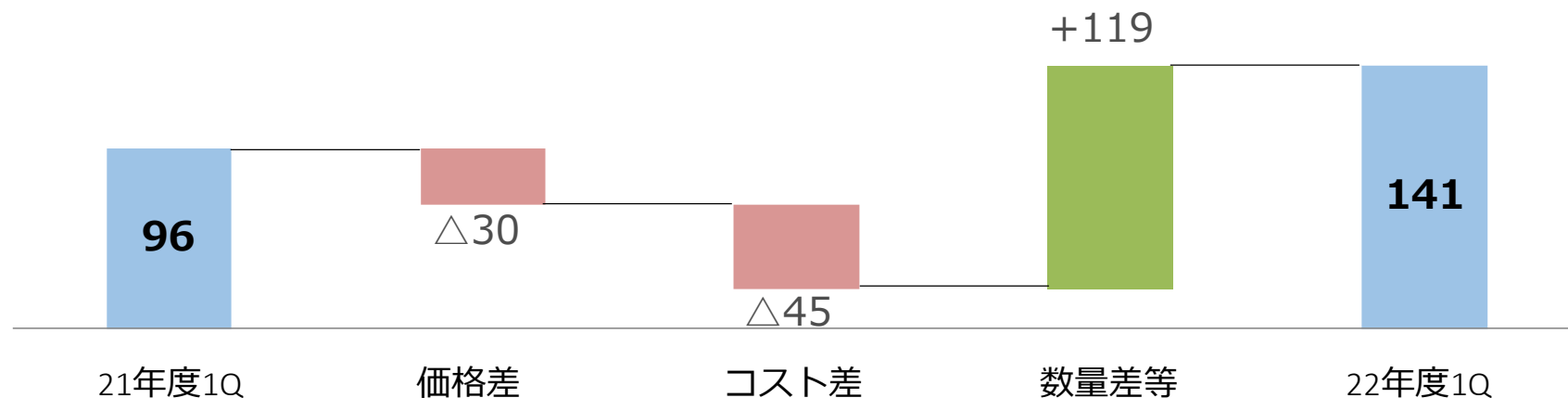
円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

22年度第1四半期コア営業利益 219億円 (前年同期比+116億円)



価格差	農薬	南米におけるジェネリック品の売価上昇に伴い交易条件が改善
	メチオニン	市況上昇の一方で、原料・燃料価格の上昇により交易条件が悪化
コスト差	農薬	INDIFLIN®垂直立ち上げや新規パイプライン開発費など、事業拡大に伴う経費増加
数量差等	農薬	南米およびインドで出荷が増加
	全体	円安による輸出手取り増加・邦貨換算差益

22年度第1四半期コア営業利益 141億円 (前年同期比+44億円)



価格差	日本国内における薬価改定の影響により売価が下落
コスト差	スミトバント社グループにおいて、オルゴビクスやジェムテサ等の拡販に伴い、販売費及び一般管理費が増加
数量差等	北米でのラツータやオルゴビクス、ジェムテサ等の売上伸長に加え、オルゴビクスの欧州における販売ライセンス契約等による一時金を収益計上

単位:億円

	21年度 1 Q	22年度 1 Q	増減
固定資産売却益	0	19	19
減損損失	△16	-	16
事業構造改善費用	△17	△ 21	△5
条件付対価に係る公正価値変動	△1	△ 1	0
その他	△0	25	25
非経常項目 計	△33	22	55

単位:億円

	22.3月末	22.6月末	増減
流動資産	18,126	21,348	3,222
現金及び現金同等物	3,654	4,986	1,332
営業債権及びその他の債権	7,204	7,786	582
棚卸資産	6,514	7,420	907
その他	754	1,156	401
非流動資産	24,955	25,351	396
有形固定資産	8,230	8,439	209
のれん及び無形資産	7,156	7,797	641
その他	9,569	9,115	△454
資産合計	43,082	46,699	3,617

	22.3月末	22.6月末	増減
負債	26,062	28,067	2,005
営業債務及びその他の債務	5,516	6,758	1,242
有利子負債	13,505	14,174	670
その他	7,041	7,134	93
資本	17,020	18,632	1,613
株主資本	10,828	11,347	519
その他の資本の構成要素	1,353	2,086	733
非支配持分	4,839	5,200	361
負債及び資本合計	43,082	46,699	3,617
親会社所有者帰属持分比率	28.3%	28.8%	0.5%
D/E レシオ (倍)	0.8	0.8	0.0

単位:億円

	21年度 1Q	22年度 1Q	増減
営業キャッシュ・フロー	47	426	379
投資キャッシュ・フロー	△413	460	873
フリー・キャッシュ・フロー	△366	887	1,252
財務キャッシュ・フロー	415	115	△299
その他	7	330	323
現金及び現金同等物の増減	55	1,332	1,276
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,665	4,986	1,321

II. 2022年度上期予想

総括

- **為替の円安進行や事業環境の変化**により、上期の業績予想を修正
- **通期の業績予想については、為替相場や原料価格等、事業環境の見通しが困難**であるため据え置きとしている。必要に応じて別途見直すこととしたい。

事業環境前提（22年度上期）

石化・原料市況	原油は引き続き高値維持。製品市況は末端需要の弱さから上値が重い。ラビグは1Qに続き好業績に期待
自動車	半導体不足や中国ロックダウン影響により、生産台数の減少が続く
ディスプレイ	巣ごもり需要の剥落やインフレによる消費マインドの減退により、パネル需要の減少を見込む
半導体	上期中は堅調な需要を想定
農薬	農薬出荷は堅調。ただし南米における売価上昇は徐々に緩和されると見込む
メチオニン	市況の上昇や円安効果はあるものの、それ以上の原燃料価格上昇を見込む
医薬品	オルゴビクス、マイフェンブリー、ジェムテサの拡販に注力

業績予想修正（上期）

単位:億円

	前回予想	今回予想	増減	増減率
売上収益	15,500	15,700	200	1.3%
コア営業利益	900	1,050	150	16.7%
（非経常項目）	(△50)	(△50)	-	-
営業利益	850	1,000	150	17.6%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	600	850	250	41.7%
平均為替レート（円/USD）	125.00	129.87 (2Q 130.00)		
ナフサ価格（円/KL）	80,000	83,000 (2Q 80,000)		

セグメント別売上収益・コア営業利益予想（上期）

単位:億円

	売上収益			コア営業利益		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
エッセンシャルケミカルズ	5,700	5,100	△600	190	280	90
エネルギー・機能材料	1,700	1,900	200	90	100	10
情報電子化学	2,300	2,100	△200	300	230	△70
健康・農業関連事業	2,600	3,150	550	190	370	180
医薬品	2,900	3,150	250	140	100	△40
その他・全社費用等	300	300	-	△10	△30	△20
合計	15,500	15,700	200	900	1,050	150

(参考資料)

セグメント別売上収益 (四半期推移)

単位:億円

	21年度				22年度	22年度
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	上期予想
エッセンシャルケミカルズ	1,995	2,000	2,255	2,176	2,386	5,100
エネルギー・機能材料	744	741	782	897	864	1,900
情報電子化学	1,093	1,184	1,244	1,217	1,147	2,100
健康・農業関連事業	1,031	1,064	1,215	1,428	1,526	3,150
医薬品	1,392	1,704	1,467	1,354	1,677	3,150
その他	136	170	164	203	142	300
合計	6,390	6,862	7,127	7,274	7,741	15,700

セグメント別コア営業利益 (四半期推移)

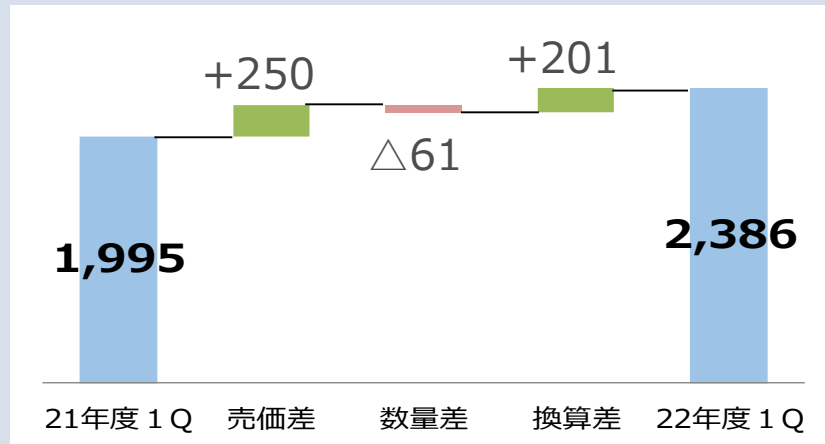
単位:億円

	21年度				22年度	22年度
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	上期予想
エッセンシャルケミカルズ	238	182	100	15	100	280
エネルギー・機能材料	67	59	61	14	66	100
情報電子化学	135	160	164	119	158	230
健康・農業関連事業	103	82	94	144	219	370
医薬品	96	403	125	△7	141	100
その他 全社費用等	△23	△14	25	6	△43	△30
合計	617	872	568	291	641	1,050

セグメント別売上収益増減分析

エッセンシャルケミカルズセグメント

売上収益増減



2,386億円 (前年同期比+390億円)

売価差
+250億円

- 市況上昇

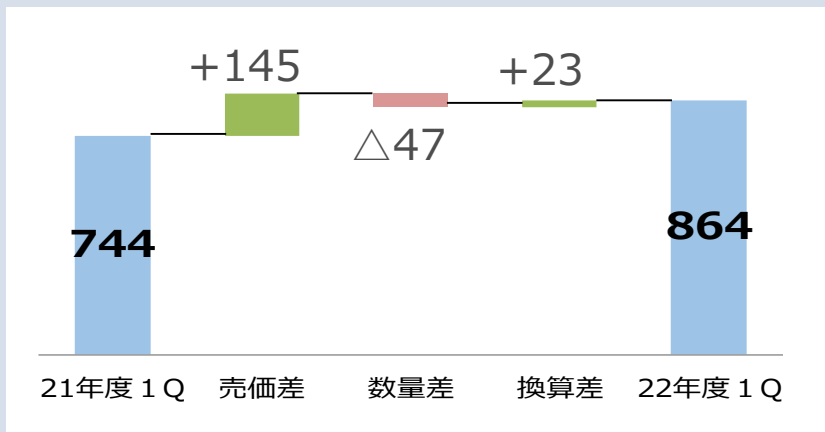
数量差
△61億円

- 自動車用途等出荷減 (合成樹脂等)

換算差
+201億円

エネルギー・機能材料セグメント

売上収益増減



864億円 (前年同期比+120億円)

売価差
+145億円

- アルミウム売価上昇
- 正極材料売価上昇

数量差
△47億円

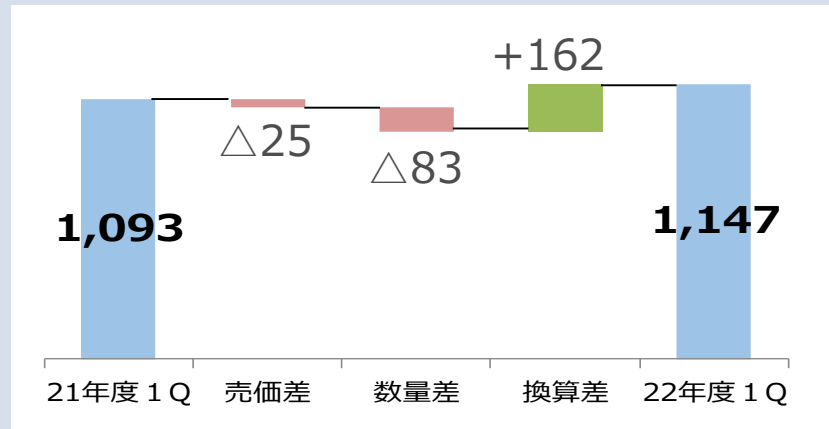
- 自動車用途等出荷減 (アルミウム・レジジン等)
- リチウムイオン二次電池用セパレータ出荷増加

換算差
+23億円

セグメント別売上収益増減分析

情報電子化学セグメント

売上収益増減



1,147億円 (前年同期比+54億円)

売価差
△25億円

- 偏光フィルム売価下落

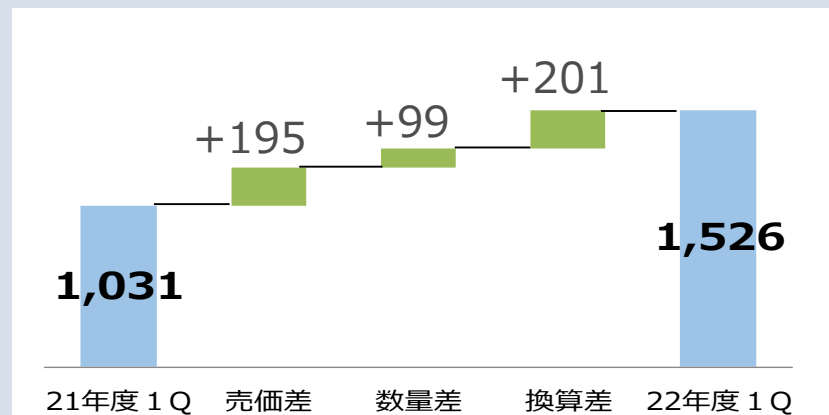
数量差
△83億円

- ディスプレイ関連材料出荷減少
- 半導体プロセス材料出荷増加

換算差
+162億円

健康・農業関連事業セグメント

売上収益増減



1,526億円 (前年同期比+495億円)

売価差
+195億円

- 南米ジェネリック品売価上昇
- メチオニン市況上昇

数量差
+99億円

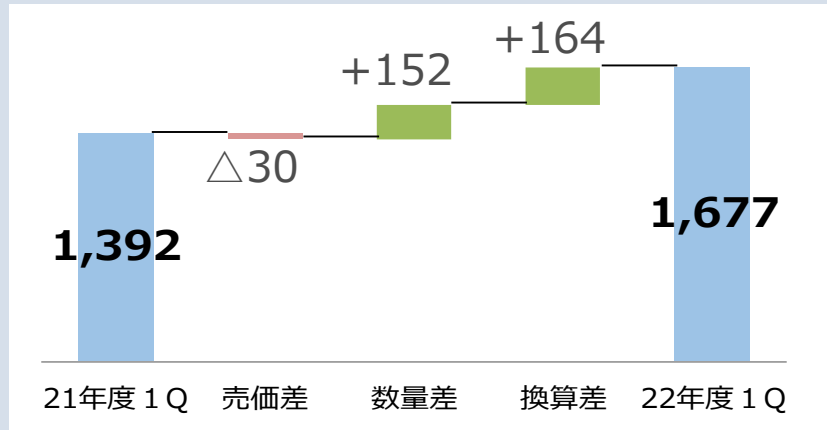
- 南米・インドにおける農薬出荷増加

換算差
+201億円

セグメント別売上収益増減分析

医薬品セグメント

売上収益増減



1,677億円 (前年同期比+286億円)

売価差
△30億円

- 国内薬価改定

数量差
+152億円

- 北米ラツード・オルゴビクス・ジェムテサ等出荷増加

換算差
+164億円

- オルゴビクス欧州販売ライセンス契約等による一時金の収益計上

外貨ベース

会社名	売上収益		利益動向
	21年度 1 Q	22年度 1 Q	
ザ・ポリオレフィン・カンパニー (シンガポール) (百万USD)	326	332	↘ 交易条件悪化
ペトロケミカル・コーポレーション・オブ・シンガポール (百万USD)	707	836	↘ 交易条件悪化
ラービグ・リファイニング・アンド・ペトロケミカル・カンパニー (百万SAR)	10,136	14,402	↗ 石油精製マージンの改善
東友ファインケム (億KRW)	5,865	5,964	↘ 製品構成差による減益
ベラント U.S.A. (連結ベース) (百万USD)	190	185	↘ 経費の計画的な執行による減益

単位：億円

	21年度1Q	22年度1Q	増減	主な差異要因
日本	153	168	15	・ 売価上昇
北米	133	141	8	・ 邦貨換算差
中南米	240	616	376	・ 売価上昇、出荷増加 ・ 邦貨換算差
アジア (インド含む)	126	174	48	・ インドを中心とした売価上昇、出荷増加 ・ 邦貨換算差
欧州その他	44	53	9	・ 欧州における出荷増加 ・ 邦貨換算差
合計	696	1,152	456	